

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	成人看護学概論	学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師:臨床実務経験）				
科目目標	変動する社会生活に適応して生きている成人を対象とした成人看護の意義、目的、対象、役割機能について学び、健康問題への適切な対処に向けて必要な看護を理解できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	成人の定義、成人各期の特徴（身体的・精神的・社会的側面） 成人各期の発達課題、グループワーク	講義 演習	専任教員	
2	2	グループワーク	演習	専任教員	
3	2	成人の生活と健康 保健・医療・福祉システム、健康維持増進、疾病予防	講義	専任教員	
4	2	成人に特有な健康問題の特徴（生活習慣に関するもの、生活ストレスに関連するもの、職業に関するもの、セクシュアリティに関連するもの） グループワーク	講義演習	専任教員	
5	2	グループワーク	演習	専任教員	
6、7	4	成人の学習の特徴、健康レベルに対応した看護 ヘルスプロモーション、エンパワーメント・エデュケーション、自己効力感、セルフマネジメント、症状マネジメント、ストレスマネジメント、危機介入	講義	専任教員	
8	1	終了試験	試験	専任教員	
評価方法	筆記試験（100点満点）と講義、演習の出席状況、参加態度、課題提出の状況で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【1】成人看護学総論 医学書院 佐藤栄子：事例を通して学ぶ中範囲理論入門 日総研 国民衛生の動向：厚生労働統計協会				
参考文献	ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版				
備考					

分野	専門分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	成人看護学方法論Ⅰ（セルフケアの再獲得とセルフマネジメントに向けての看護）		学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	①脳卒中リハビリテーション認定看護師					
	②皮膚排泄ケア認定看護師					
	③慢性呼吸器疾患認定看護師					
	④糖尿病認定看護師					
科目目標	①生活行動に障害のある対象の社会生活から受ける影響とその反応を理解し、QOL獲得向上のための観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。 ②生涯にわたる疾病コントロールが必要な対象の社会生活から受ける影響とその反応を理解し、QOL獲得の向上のための観察力、判断力看護援助の方法を理解できる。					
回数	時間	授業内容		授業方法	担当講師	
1	2	<事例：脳梗塞>成人にとってのセルフケア再獲得（アドボカシー、ノーマライゼーションの理念、セルフケア理論） セルフケアの低下状態にある成人の理解		講義	①	
2	2	セルフケアの再獲得のプロセスにおける心理・精神的変化（障害の受容）、セルフケアの再獲得と自立		講義	①	
3	2	セルフケア低下状態のアセスメントと評価（食・排泄・活動） セルフケア再獲得を支援する方法		講義	①	
4	2	セルフケア再獲得の支援に必要な看護技術 ADL評価 生活指導		演習	①	
5	2	<事例：大腸がん> セルフケア低下状態のアセスメントと評価（排泄）		講義	②	
6	2	セルフケアの再獲得を支援する方法		講義	②	
7	2	セルフケア再獲得の支援に必要な看護技術 ストーマケア 生活指導		演習	②	
8	1	中間試験				
9	2	<事例：糖尿病>セルフマネジメントについて セルフマネジメントを必要とする成人の理解と健康障害		講義	④	
10	2	セルフマネジメントに向けての支援（コンプライアンスとアドヒアランス、エンパワーメントモデル、自己効力感）		講義	④	
11	2	糖尿病とともにいきるセルフマネジメント支援		講義	④	
12	2	セルフマネジメントを推進する看護技術 血糖測定技術・生活指導		演習	④	
13	2	<事例：慢性呼吸不全>慢性呼吸不全とともにいきるセルフマネジメント支援		講義	③	
14	2	慢性呼吸不全とともにいきるセルフマネジメント支援		講義	③	
15	2	セルフマネジメントを推進する看護技術 在宅酸素療法（HOTの管理）・生活指導		演習	③	
16	1	終了試験		試験	①②③④	
評価方法	筆記試験2回（各100点満点）の平均点と授業、演習の参加の状況で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	成人看護学② 健康危機状態/セルフケアの再獲得 メディカ出版 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【5】消化器 【6】内分泌・代謝 【7】脳・神経 【2】呼吸器 医学書院					
参考文献	系統看護学 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 佐藤栄子：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研					
備考						

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	成人看護学方法論Ⅱ（健康危機状況にある人の看護）	学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	①臨床看護師：臨床実務経験あり(救急外来) ②認定看護師：臨床実務経験あり（ICU経験）				
科目目標	①手術などの侵襲的治療、救命救急治療を受ける健康危機状況にある対象の心身の反応を理解し、観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。 ②危機状況にある対象の家族に及ぼす影響とその反応を理解し、観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	<事例：心筋梗塞>クリティカルケア看護とは クリティカルケアを必要とする患者の特徴	講義	①	
2	2	クリティカルケア看護とチーム医療 クリティカルな患者の病態の理解と看護	講義	①	
3	2	クリティカルな患者の病態の理解と看護	講義	①	
4	2	危機状態にある患者・家族へのケア（危機介入）	講義	①	
5	2	救命救急治療（PCI）の看護	講義	①	
6	4	クリティカルケア看護に必要な看護技術 痛を訴える患者の全身状態の観察と臨床判断	胸 心電 演習	①	
7		図モニターの装着と観察			
8	1	終了試験	試験	①	
9	2	<事例：胃がん>身体侵襲を伴う治療（手術）を必要とする状況	講義	②	
10	2	手術前の状態と看護	講義	②	
11	2	手術中の状態と看護	講義	②	
12	4	手術後の状態と看護	講義	②	
13					
14	2	手術を受ける患者の家族の心理とその対応	講義	②	
15	2	手術を必要とする成人に必要な看護技術 術直後、術後1日目の全身状態の観察方法と臨床判断	演習	②	
16	1	終了試験	試験	②	
評価方法	終了試験2回の成績(各100点満点)の平均点と講義・演習の参加、提出物で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 よくわかる周手術期看護 学研				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 専門分野 成人看護学（3）循環器（5）消化器 医学書院				
備考					

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	成人看護学方法論Ⅲ（終末期と緩和ケア）	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	認定看護師（緩和ケア）				
科目目標	<p>1. 治療困難・終末期にある緩和ケアを必要とする対象の心身の反応を理解し、QOLの維持、向上のための観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。</p> <p>2. 治療困難・終末期にある緩和ケアを必要とする対象の家族に及ぼす影響とその反応を理解し、QOLの維持、向上のための観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。</p>				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	終末期・緩和医療、緩和ケアとは	講義	認定看護師	
2	2	緩和ケアを必要としている対象の理解、 緩和ケアにおけるコミュニケーション、倫理的課題	講義	認定看護師	
3	2	痛みについて、疼痛コントロール、疼痛マネジメント	講義	認定看護師	
4	2	身体症状マネジメント・徴候マネジメント（臨床判断）	講義	認定看護師	
5	2	全人的ケアの実践	講義	認定看護師	
6	2	緩和ケアを必要とする人の家族に及ぼす影響とその反応、家族のケア	講義	認定看護師	
7	2	緩和ケアを必要としている人への看護技術 臨死期のケア（死後のケア）	演習	認定看護師	
8	1	終了試験			
評価方法	終了試験の成績(100点満点)、講義への出席状況、参加態度、課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 任 和子編集：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 成人看護学（2）成人看護学総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学6 緩和ケア メディカ出版				
備考					

分野	専門分野	単位数	1	時間数	20
授業科目	成人看護学方法論Ⅳ	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨書実務経験あり）				
科目目標	1. 健康状態における観察、判断力、看護援助の方法を活用し、紙上事例を使って、看護過程の展開が理解できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	病態生理、治療、看護、事例（周手術期：胃がん）	講義	専任教員	
2	2	情報の整理（ヘンダーソン看護過程）	講義演習	専任教員	
3	5	情報の解釈・分析 グループ討議	講義	専任教員	
4			演習		
5					
6	2	全体像、看護上の問題の明確化、グループ討議	演習	専任教員	
7	2	看護計画の立案	演習	専任教員	
8	2	日々の行動計画の立案,関連図作成	講義	専任教員	
9	2		演習	専任教員	
10	2	計画の修正	演習	専任教員	
11	1	終了試験	試験	専任教員	
評価方法	終了試験の成績(100点満点)、講義・演習への出席状況、参加態度、課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	秋葉広子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、ヌーベルヒロカワ2016 江崎フサ子他著：ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト第4版ヌーヴェルヒロカワ2013 系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 石塚睦子編著：よくわかる周手術期看護 学研 高木永子他：看護過程に沿った対症看護、第5版 学研				
参考文献	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論				
備考	既習の知識と新しく調べた知識を統合して、アセスメントすることができる。 事例を使って看護過程を展開することが出来る。				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	勤労者と看護	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	①産業看護師				
	②臨床看護師				
科目目標	勤労者の健康の調和をはかり、心身ともに健康で充実した職業生活が送れるように支援する活動内容が理解できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	労働衛生チームと看護職の連携	講義	①	
2	2	産業看護活動を展開するための労働衛生の基礎	講義	①	
3	2	職業性疾病についてのグループワーク	演習	①	
4	2	産業看護活動の実際/今産業看護活動の課題・展望 健康診断・健康相談・健康教育	講義	①	
5	2	作業環境・作業環境管理、労働災害	講義	②	
6	2	労災病院における勤労者医療と看護	講義	②	
7	2	勤労者アセスメントツールを使った事例の振り返り	講義	②	
		見学する工場の労働衛生の状況 予測される健康障害	演習		
8	1	終了試験	講義	②	
評価方法	終了試験の成績(100点満点)、講義への出席状況、参加態度、課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	勤労者医療カリキュラム検討委員会編著：勤労者医療－概論－労働者健康安全機構 労働衛生のしおり 中央労働災害防止協会				
参考文献					
備考	企業見学は成人・老年看護学実習1で実施				